

I. 研究の概要

1 研究主題

「わかる」「できる」を実感する算数科授業の創造
～伝え合い、高め合う力を伸ばす指導の工夫～

テーマ決定の経緯

確かな学力の獲得を図るためには、児童が学習活動の中で課題やその解決方法がわかり、実際に課題解決ができることが不可欠である。課題を自力で解決してこそ学力が身についたと言える。そのために、学習活動の様々な場面で、児童が「わかる」「できる」を積み重ねていくことが大切である。わかったことを実際に自分でやってみてできたという経験は自信になり、算数に対する意識も高まる。

では、その「わかる」「できる」という思いを実感させるためには、どのような指導をすればよいのか。まず、「わからない」状態の児童について考えると、問題の意味、学習の課題、解き方、計算の仕方、がわからない児童と考えられる。そのような児童が、わかるようになるためには、他の児童の意見を聞いたり、質問したりして徐々にわかるようになるはずである。「できない」状態の児童は、計算や作図ができない、説明ができないという児童であり、自力で学習を進めていくのは困難である。ある程度わかっている、できていると感じている児童であっても、友達の考えを聞いて自分の考えを広げたり、深めたりすることができる。感染症対策下では、個人で学習する場面が多く、自分の考えを説明したり友達と共に考えたりする場面が少なくなっている。そのような状況下であっても、児童同士がお互いの考えを伝え合い、高め合う活動によって、児童に「わかる」「できる」を実感させる指導ができるのではないだろうかと考えた。

そこで、本校では、伝え合い高め合う活動を通して、児童に「わかる」「できる」を実感させる授業を創造するために本研究主題を設定した。

2 テーマについての基本的な考え方

「わかるとは」

- ・問題の意味がわかる。
- ・学習の課題がわかる。
- ・解き方がわかる。
- ・計算の仕方がわかる。
- ・先生や友達の説明がわかる。

「できるとは」

- ・意欲をもって学習に参加できる。
- ・具体物を操作できる。
- ・作図ができる。
- ・計算ができる。
- ・自分の力で問題を解くことができる。
- ・自分の考えを説明できる。
- ・学習したことを活用できる。

3 教科領域

算数

4 ・学校教育目標

知性と徳性を備えた健康で人間性豊かな児童の育成
～凡事徹底，子どもたちへ寄り添うことを通して～

・目指す児童像

よく考え，自ら進んで学ぶ子 〈かしこく〉 知
思いやりがあり，よくはたらく子 〈正しく〉 徳
進んで体をきたえ，最後までやりぬく子 〈元気よく〉 体

5 研究のねらい

授業の中で「伝え合い」「高め合い」の場面を確保し，教室でともに学ぶことで，児童が「わかる」「できる」を実感できるよう，授業を創造する方策を明らかにする。

6 めざす子ども像

- 既習事項を生かし，課題解決の見通し，課題を解決することのできる子
- 数量と図形の性質に関する基礎的・基本的な知識・技能を身につけ，表現することができる子

7 研究の視点

- (1) 単元の見通しを持って指導し，児童も既習事項を生かして見通しを持って学習できるよう工夫する。
- (2) 活動に様々な制限がかかる中でも，自分の考えを説明したり，友達と共に問題解決を図ったりできるよう，ICT やホワイトボード等のツールを活用しながら，活動の工夫をしていく。

- (3) 「伝える力」「協働」を重点に研究を進め、「わかる」「できる」が実感でき、自己肯定感の高い子どもたちの姿を目指していく。

8 研究仮説

伝え合い、高め合う力を伸ばす指導の工夫をしていけば、「わかる」「できる」を実感させる授業ができるであろう

9 研究の内容・方法

- ・研究の視点に基づく「わかる」「できる」を実感するための効果的な伝え合い、高め合う方法を検討する。
- ・授業研究を行い、伝え合い、高め合うために効果的な ICT、ホワイトボード等のツールの活用方法について検証する。

10 年間の研修の流れ

- 4月 研究のテーマ・授業時期決定
- 5月 各学団めざす子ども像の決定
理論研修（講師招聘）
- 6月 第1回校内研修（講師招聘）
- 7月 第2回校内研修（講師招聘）
夏季研修（講師招聘）
- 8月 指導案検討
- 9月 指導案検討
- 10月 第3回校内研修（講師招聘）
- 11月 指導案検討
- 12月 第4回校内研究（講師招聘）
- 1月 校内研究児童アンケート実施
研修の成果と課題作成
- 2月 研究紀要作成
今年度の反省と次年度の研究構想（講師招聘）

1 1 研究体制

